

大阪城

2024
7/11
(木)
1446
号

全港湾
西成分館

2247
6647-
4947

この4と5日は雨の予報が多いが、関西の平年の梅雨明けは、だいたい7/19ごろとの話なので、梅雨明けも近く、真夏の熱気が籠らさなうです。地球も激動をはじめているようです。

ヨーロッパ(EU)社会では、日本人には根本のところはよくわからなもののだが、イギリスでは左派労働党が政権をとった。仏では当初、極右が過半数をとりそうといわれたが、結局、左派が議会で第一党になった。政界の世界で、左派といわれても、内容はたいぶ違いうように、ヨーロッパの左派や政党は、日本よりは50年ほどは古く、歴史も経験もつんでいるようだ。

ヨーロッパや英・仏で、左派が力をつけているから、日本もすぐ左派が発展するということではないだろう。ただ、地球世界をゆるがしている根本的、大極的な原因や問題は、地理・歴史はリシと違っているも、根源の原因は同じなので、日本の左派といわれる人々も、いずれ、その波と流れに飲み込まれ、変せ早まされていくのだろう。秋のR/Sにアメリカ大統領選挙があるからではなくて、その後は表で見える象徴的なシンボルにはあるが、2024年後半、地球が、ニラリと、エムから、ホタリつつあるのではないだろうか。梅雨が明ければ、

と違う自然がまっさいとうです。
よろしくお願ひします。
7/15(月)は、海の日とみて休日なので、大阪城は休みます。

万博会場建設作業中に長さ113の鋼材8枚 落下 産経新聞7/7

海外パビリオン鋼材落下の事故博・けが人なし
2025年大阪・関西万博を運営する日本国際博覧会協会は5日、大阪市此花区の夢洲の海外パビリオン建設工事現場で、鋼材が落下する事故が発生したと発表した。けが人はなかった。中日建設（名古屋市中村区）が施工。協会は作業の安全が確認できるまで、このパビリオンの工事を中止する。協会関係者によると、5日正午ごろ、参加国が自前で建設する「タイプ」のパビリオン建設工事中に、施工業者が搬入用の車両から鋼材（長さ10メートル、厚さ5ミリ）を移動させようとした際、誤って地面に落下させたという。

毎日新聞 7月6日朝刊 【東久保逸夫】

A型パビリオンの工事が滞ってどうなるかという時期に「ついに大変な事故がおきました。「不幸中の幸い」で人身事故が無かったとはいえ、作業の基本中の基本と思われる工程で、安全確認の再点検は必須なことです。

「ワイヤーロープが切れた」とか「釣り金具の不備」だとか報道している新聞もあるのですが、原因究明や事故の責任、事故防止と対策についてしっかりとした対応が求められています。

【万博】103鋼材』落下の中国パビリオン 原因は『吊り具』の損傷と判明 安全性確認され工事再開へ yahoo news

灼熱地獄の現場過酷な環境続きそうです。